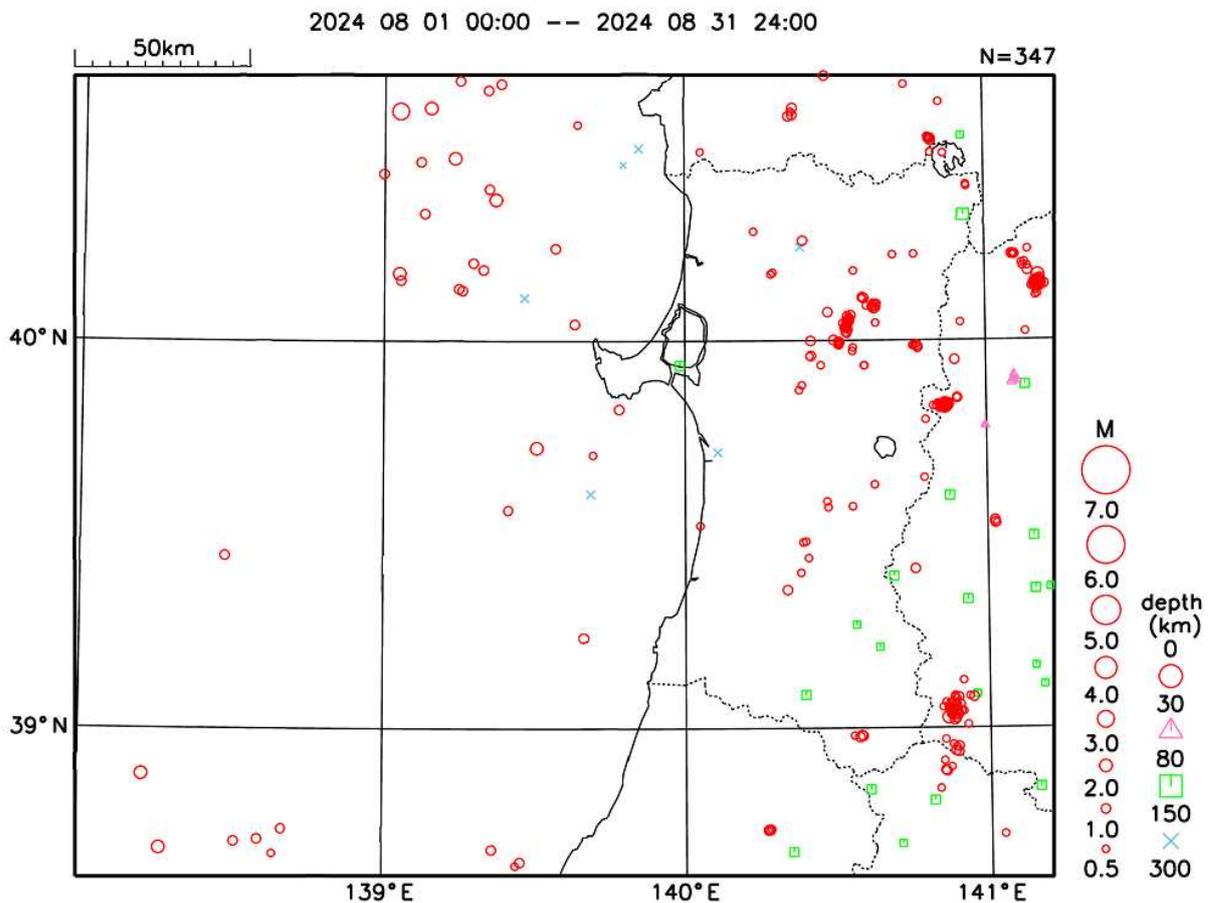


秋田県月間地震概況

秋田地方気象台

2024年8月

【震央分布図】

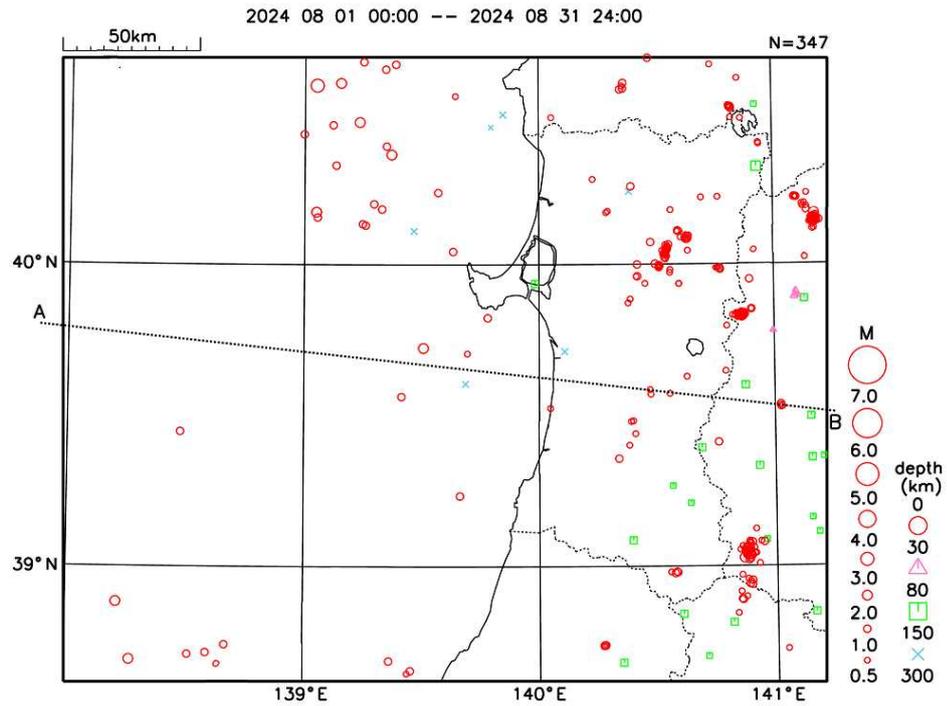


〈8月の地震概況〉

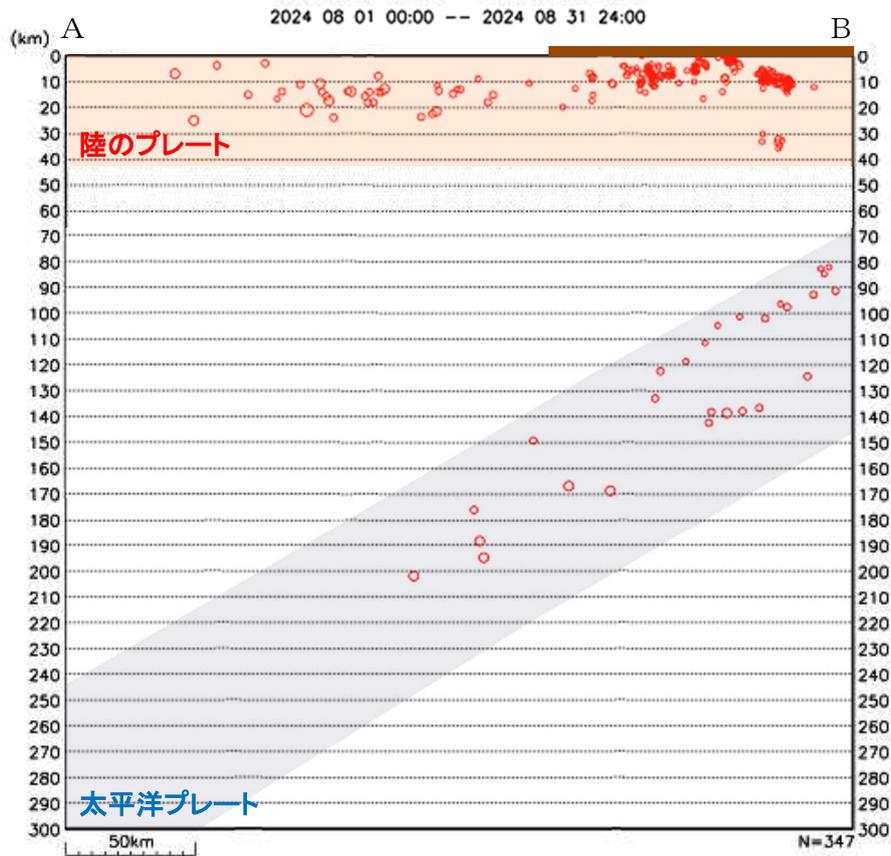
今期間、秋田県内で震度1以上を観測した地震は1回（7月：6回）で、図の範囲外を震源とする地震であった。

10日12時28分にオホーツク海南部（図の範囲外）の深さ447kmでM6.7の地震が発生し、北海道と東北地方で震度3～1を観測した。県内では、能代市、大館市、横手市などで震度1を観測した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。

【震央分布図】



【断面図】 (震央分布図内の直線A-Bを断面として投影した震源の深さの分布)



- ※ 太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。
- ※ は陸地の大まかな位置を示している。
- ※ 陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。
 なお、海域地殻内の地震の震源（日本海の浅い地震など）は、実際にはより浅いものが多いと考えられる。

秋田県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2024年08月01日～2024年08月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2024年08月10日12時28分	オホーツク海南部	46° 47.8' N	145° 00.3' E	447km	M6.7
秋田県	震度 1：能代市上町* 三種町森岳*	大館市早口*	北秋田市新田目*	横手市大雄*	大仙市高梨*

(注) 地震の震源要素等は暫定値であり、再調査により変更することがある。

各地の震度は秋田県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

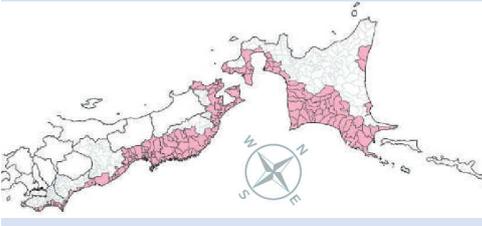
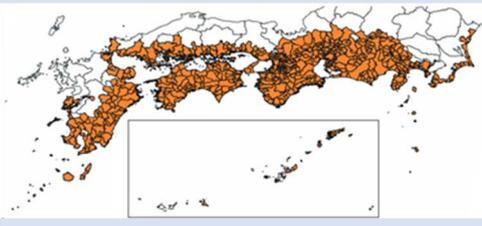
北海道・三陸沖後発地震注意情報と 南海トラフ地震臨時情報

気象庁は、2024年8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を初めて発表しました。この発表を受けて、南海トラフ地震防災対策推進地域では、日頃からの地震への備えの再確認や、地震が発生した際にすぐに避難できる準備などが呼びかけられました。この呼びかけは、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された際に、北海道・東北・関東地方の太平洋沿岸の地域に呼びかけられる内容と同じです。そこで、南海トラフ地震臨時情報と比較しながら、あらためて、北海道・三陸沖後発地震注意情報について解説します。

想定される巨大地震と防災対応が必要な地域

南海トラフ地震臨時情報が対象としている地震は、南海トラフ地震という東海地方から九州にかけての太平洋側の沖合での発生が予想されている巨大地震です。対して、北海道・三陸沖後発地震注意情報が対象としている地震は、三陸沖から北海道の太平洋側の沖合（日本海溝・千島海溝沿い）での発生が予想されている巨大地震です（表1）。いずれの地震も、強い揺れと巨大な津波により、甚大な被害が想定されています。そして、この被害を少しでも軽減するための情報として、北海道・三陸沖後発地震注意情報や南海トラフ地震臨時情報が運用されています。

表1 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報が対象としている想定地震

	北海道・三陸沖後発地震注意情報	南海トラフ地震臨時情報
想定する最大クラスの地震の規模	Mw9.3（千島海溝モデル） Mw9.1（日本海溝モデル）	Mw9.1
想定震源域・想定最大震度・想定津波高など		
被害想定（最大）	死者・行方不明者 約199,000人	死者・行方不明者 約323,000人
防災対応が必要な地域		

※ 地震の想定等は、内閣府中防災会議により南海トラフ地震防災対策、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策のために行われた検討会・ワーキンググループ等の報告による。

※ 被害想定（最大）は、それぞれの地震の被害想定に関する報告の中で、最悪のケースとされている数値を記載。

※ Mw：モーメントマグニチュード（地震波形全体を詳細に解析することで得られるマグニチュードで断層の面積と断層すべり量の積に比例する。物理的な意味が明確で、M8.0を超える地震に対しても適切な値を求められるという特徴がある。）

北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の違い

北海道・三陸沖後発地震注意情報も南海トラフ地震臨時情報も、巨大地震の発生可能性が高まっていることをお知らせする情報であるという点では同じです。しかし、南海トラフ地震臨時情報は、状況によって呼びかける内容が異なることから、それに応じたキーワードを付して発表するのに対して、北海道・三陸沖後発地震注意情報にはキーワードは無く、発表された際に呼びかける内容は固定となっているという大きな違いがあります（表2）。

表2 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の発表条件と呼びかけ内容

情報名（キーワード）	発表条件	呼びかけ内容
北海道・三陸沖後発地震注意情報	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域及びその周辺でMw7.0以上の地震が発生 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域及びその周辺でMw7.0以上の地震が発生（南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）に該当する場合を除く）したと評価 想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域内のプレート境界でMw8.0以上の地震が発生したと評価 	<ul style="list-style-type: none"> 事前避難 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（調査中）	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ沿いの大規模な地震と関連する可能性がある現象や地震を観測し、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催 	なし
南海トラフ地震臨時情報（調査終了）	<ul style="list-style-type: none"> 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」により、観測された現象が（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）の発表条件に当てはまらないと評価 	なし

北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときの呼びかけの内容は？

情報が発表されてから1週間、通常どおりの生活（学校に行ったり、仕事をしたり）を送りつつ、普段より巨大地震の発生に注意し、日頃からの地震への備えの再確認、すぐに避難できる態勢の準備などを行うよう、呼びかけられます。

日頃からの地震への備えの具体例としては、水や食料の備蓄や簡易トイレ、防寒具などの避難生活に必要なものの再確認、避難場所・避難経路や家族との連絡手段の再確認、家具の固定や高い場所にある物の転倒・落下防止対策の再確認などがあります（図1）。



図1 日頃からの地震への備え（リーフレット「日本海溝・千島海湖沿いの巨大地震」より）

また、すぐに避難できる態勢の準備の具体例としては、避難情報を確実に取得できるようにしておく（スマートフォンや防災無線受信機等の音量アップなど）、スマートフォン等の情報を取得できる機器の予備バッテリーの準備、屋内の安全な場所での生活（がけに近い部屋から離れるなど）、非常持ち出し品の常時携帯（就寝時でもすぐに持ち出せるように準備）、すぐに逃げられる服装での就寝などがあります（図2）。



図2 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときの防災対応
（リーフレット「日本海溝・千島海湖沿いの巨大地震」より）

なお、北海道・三陸沖後発地震注意情報や南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されているからといって、防災対応を呼びかけられている地域（情報の対象地域）への旅行や出張を中止しなければならない、というわけではありません。普段より巨大地震発生の可能性が高まっているとはいえ、発表期間の1週間に発生する確率は100回に1回程度⁺です。ただし、緊急情報の取得態勢の確保に加えて、訪問先の市区町村からのお知らせや交通状況、宿泊先や施設等の営業状況を事前に確認し、適切な行動を心がけるようにしてください。

⁺世界の大規模地震のデータより、過去100年程度の間（1904～2017年）に発生したMw7.0以上の地震1,477回のうち、発生後7日以内に、その地震が発生した場所から500km以内の領域でMw7.8以上の地震が発生したのは17回であり、発生頻度は100回に1回程度である。なお、最初の地震がMw8.0以上の場合は104事例で、そのうち9事例でMw7.8以上の地震が発生している。

日頃からの地震の備えを忘れずに！

北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表期間の1週間に、大きな被害を伴うような大地震が発生しないことがほとんどです。たとえ、情報発表時に地震が起こらなかったとしても、「空振り」と捉えるのではなく、防災意識の向上につなげる「素振り」（＝良い練習ができた）と捉えましょう。また、対象地域以外の場所でも、何の前触れもなく大地震が発生することがあります。**突発的に大きな地震が発生した場合に備えて、日頃から地震への備えを徹底しましょう。**